

2026/08/05 時点でのオンデマンド科目のコンテンツです。今後、追加・削除が発生します。

Moodle 制御の2026年度オンデマンド科目：0～17は、専門導入科目（大学教育作成）

Moodle No	教育機関	学部等	職位	講師氏名	科目名	コマ数
下記は、2026年度に開講した科目群						
番号無し	大分大学	プラットフォーム推進室	-	-	受講者同士の筆談対話の場	-
番号無し	AIPA	-	-	荒添	会社LMSへのリンク、課題の提出	6時間強
番号無し	Schoo Swing	-	-	-	会社LMSへのリンク、課題の提出	制限無し
番号無し	div	-	-	-	会社LMSへのリンク、課題の提出	16時間相当
19	Claude Code	(株)divの説明文書を理工学部技術部がe-learning化	技術部委託	原槇、上ノ原三浦ら (株)div	(作成中 タイトル案)Claude CoWorkで学ぶ、はじめてのAIEージェントづくり2026	Lesson 1～Lesson 5 16時間相当
18	Claude Cowork	Co-AI Works	教授相当	神崎 千夏	(作成中 タイトル案)Claude CoWorkで学ぶ、はじめてのAIEージェントづくり2026	4 12時間相当
17	大分大学	医学部医学科	教授	山本恭子 他	(作成中)健康科学概論	4
16	大分大学	福祉健康科学部	講師	齋藤 建児	地域福祉論	10
15	日本文理大学	経営経済学部	助教	橋本 拓	ソーシャルワークの基盤と専門職	8
14	日本文理大学	経営経済学部	助教	大谷 明弘	社会福祉入門	8

下記は、2025年度に開講した科目群

13	大分大学	ダイバー	教授	松浦恵子ら4名	社会人に必要なダイバーシティ	8
12	大分大学	IRセンター	准教授	鈴木 雄清	学習意欲の心理学	15
11	大分大学	理工学部	講師	近藤 隆司	電磁気学	15
10	大分大学	理工学部	教授	末谷 大道	力学	14
9	大分大学	理工学部	教授	小田 和広	プログラミング	15
8	大分大学	理工学部	講師	池部 実	基礎プログラミング	15
7	大分大学	理工学部	教授	大賀 恭	物質の状態と変化	14
6	大分大学	理工学部	教授	大賀 恭	原子と分子	14
困難で非活用 99	大分大学	理工学部	教授	長屋 智之	力学	14

下記は、2024年度に開講した科目群

5	日本文理大学	経営経済	准教授	長崎 浩介	ビジネスパーソンのための会計学入門	10
4	大分大学	経済学部	教授	渡邊 博子	地域のブランド創造	4
	大分大学	産学官連携推進センター	教授	松下 幸之助	地域のブランド創造	4
	別府大学	文学部	准教授	福西 大輔	地域のブランド創造	2
	日本文理大学	工	教授	近藤 正一	建築と都市のこれまでとこれから	1
	日本文理大学	工	准教授	江越 充	建築と都市のこれまでとこれから	1
3	大分大学	産学官連携推進センター	教授	松下 幸之助	知的財産論	15
2	日本文理大学	工	教授	福島 学	情報技術からAI	15
1	大分大学	経済	准教授	松谷 葉子	経営学入門	10

2026年8月上旬時点でのコンテンツです。今後、コンテンツの追加・削除が発生します。

2026汎用的能力科目（SchooSwing のLMSで受講）

必修（マイスターコース）・おすすめ（マイスターコース以外のコース）	講座番号
「集合知性」がチームでの成果をつくる鍵	ID 8224
会議で結論を出すためのファシリテーション	ID 12849
第1回 ワンチームになるために、リーダーがすべきこと	ID 12539

ライフ・キャリア・プラン	講座番号
子育て中のメンバーがいる場合のマネジメントで大事なこと	ID 11908
共働き時代だからこそそのコミュニケーション	ID 9607
子育て社員の不安解消講座	ID 8989
ブレない自分をつくる7つの問い	ID 10405
「疲れが取れない..」を解決～あなたの知らない3つの回復法	ID 10908
キャリアにつながる「素のアウトプット」	ID 11654
第1回 「オルカン」や「S&P500」...商品名ではなく中身で選んでますか？	ID 12245

移住定住・地域づくり	講座番号
どこでも働ける私たちが考える「仕事と暮らし」	ID 7602
IT系と田舎暮らしのホントのところ	ID 3549
熱意ある地方創生講座 supported by KDD	ID 7285
おもしろい地域のつくり方	D 2645
「人とのつながり」が大切な理由、説明できる？	ID 10414
第1回 会社員×個人事業で楽しく生きる	ID 12498
半径3メートル以内を幸せにする	ID 4744

イノベーション	講座番号
現場から始める“小さな変革”	ID 12215
問題解決・本質をつかむ握力向上委員会	ID 12220
チームの迷いを無くす 情報の組み立て方	ID 12689
マネージャーの役割やメンバーとの信頼関係	ID 11436
自分を自然と目標に向かわせる方法を学ぶ	ID 6092
イメージと行動の関係を学び活用する	ID 6093
第1回 【凝縮30min版】人を巻き込み、結果を出すプロジェクト成功術～会社員編～	D 12730

上司向け	講座番号
第1回 ワンチームになるために、リーダーがすべきこと	ID 12539
第1回 1on1ってなにを話すの？基本の考え方と進め方	ID 12279
第1回 部下の成長につなげるネガティブフィードバック	ID 12147
第3回 経験を通じた成長機会の創出	ID 12756
第1回 部下が納得して動く目標設定の秘訣	ID 12088
第1回 部下はどうしてすぐ辞めるのか？	ID 11499
第1回 後輩・部下と話すとき、“メンター視点”足りてる？	ID 12240

AI	講座番号
Step1 AIがもっともらしい嘘をつく仕組みを理解し、防ぐ	ID 12882
第1回 Google Workspaceで学ぶAIエージェント入門	D 12801
第1回 今日から使える“個人業務爆速テクニック”	D 12501
第1回 自社ナレッジ×RAG - AI高度利活用の設計図	ID 12596
第1回 ChatGPTで“論理的思考力”を鍛えよう	ID 12243
第2回 ChatGPTと一緒に学ぶ はじめてのExcelデータ分析	ID 12254
第1回 基礎編：生成 AIで資料の文章作成を効率化する	ID 12304

ビジネスお役立ち	講座番号
【完全版】「考えがまとまらない」をなくすトレーニング	ID 12284
あなたのフォローアップでチームを動かす	ID 11916
心理学で解決 ビジネス重大事件簿	ID 11413
他者と気持ちよく働く 仕事の“ダンドリ”	ID 11406
情報を血肉に変える「自分視点」の作り方	ID 12653
ムダな仕事を見つけて、やめる	ID 11333
【凝縮30min版】経営コンサルタントがやっている情報整理術	ID 12728

思考・考え方	講座番号
よかれと思って空回る大人たちの「すれ違い」研究	ID 12514
変化を生み出すリーダーの思考-第1回 「問い」を再定義できるか	ID 12023
心理的安全性を高めるチームの“仕組み”	D 12446
日本一走るアナウンサーから学ぶ「逆境ポジティブ変換タイム」	ID 10273
すり減らないために「やめる」3つのこと	ID 10658
「人に嫌われるのが怖い」です。	D 11462
その悩み、図解思考で解けちゃいます～キャリア・仕事の悩み編	ID 11811

コミュニケーション	講座番号
令和版「飲みニケーション」の極意	ID 11585
緊張しても話せる3つの習慣	ID 10787
我々は他責思考である。	ID 12217
第1回 話し方のキホンのキホン	ID 8841
人はなぜ何かを“推す”のか	ID 11732
第1回 「自分自身」をどこまで語れるか	ID 6370
変化を味方につける 自分アップデート術	ID 12507

製造系	講座番号
【凝縮30min版】データ分析センスが身につく統計入門	ID 12727
第1回 【凝縮30min版】課題設定のプロセス	ID 12723
5S活動の実践研修ー前編ー	ID 4160
第1回 巻き込み力で仕事をスムーズに回す	ID 12693
第2回 モノづくり現場で不正を防ぐための具体的方法	ID 12449
第1回 品質管理の基本	ID 12682
第3回 実践でバラツキを最小化するには	ID 12684

部下・新人向け	講座番号
第1回 指示の“受け方”は、大事なスキルです	ID 12763
第1回 巻き込み力で仕事をスムーズに回す	ID 12693
第2回 あなたの上司はどのタイプ？3種類の言語化術	ID 11350
自ら考え、動くための「心構え」	ID 8431
指示を受けたら段取って	ID 12789
【新入社員研修カリキュラム版】不安に悩まない3つの習慣	ID 9823
第1回 実践 ロジカルライティング	ID 12838

Comic Learning の会社のLMS上で受講

No.	コミック学習
1	ビジネスコミュニケーション3
2	ビジネスコミュニケーション4
3	ビジネスコミュニケーション5
4	チームビルディング
5	情報セキュリティ1
6	著作権1
7	知的財産権
8	DX入門
9	DEI 1
10	パワーハラスメント
11	生成AI 1
12	生成AI 2

Moodle 上で受講		Claude Code 解説文面の閲覧と3本の解説動画（div社制作）		技術部作成の解説動画は Moodle 上で受講	
Claude Cowork（Co-AI Works 神崎千夏） AIエージェント活用ハンズオン研修 CoWorkで学ぶ、はじめてのAIエージェントづくり		Claude Code 2（株）div制作、div社のLMS ※ 受講者自身による解説文書の読み込みが軸となった学び		Claude Code 1 大分大学技術部制作 Moodle ※ 講師と司会者の対話による動画解説が軸となった学び	
Lesson 1 AIエージェントの基礎とパイプコーディング体験 内容：AIエージェントの全体像を理解し、Claudeチャットで簡易アプリ作成を体験する ・AIエージェントとは何か・生成AIとの違い ・活用事例と本研修のゴール（4ステップ） ・パイプコーディング体験①（Claudeチャットで簡易アプリ作成） ・パイプコーディング体験②・今回のまとめ		Lesson 1 はじめに ・なぜ今、AIエージェントを学ぶべきか ・Claude Codeの仕組みを知ろう ・なぜ「コンテキスト」が重要なのか理解しよう ・Claude Codeとの対話を最適化する ・機能を拡張する仕組みを知ろう ・学習の準備を行おう ・ローカル環境を構築しよう（Windows/Mac版）		【Lesson 1 はじめに】 01. Claude Codeは、日本語で目的や条件を受け取り、ファイルを操作して仕事を進めるAIエージェント 02. AIに定型作業を任せ、人は判断や企画に集中する 03. Chatは相談、Coworkは委任、Codeは業務の仕組みづくりに使う 04. 言語モデルが次の行動を判断し、ツールがファイル操作やコマンドを実行する 05. APIでコンテキストを送り、トークンで情報量を数える 06. /clearで履歴をリセットし、/compactで会話を要約する 07. その場の指示はプロンプト、共通ルールはCLAUDE.mdを書く 08. 繰り返す手順をSkillにまとめ、定型作業を同じ流れで再実行する 09. MCPでブラウザや業務サービスを接続し、Claude Codeが使える道具を増やす 【環境構築（Windows版・Mac版共通）】 01. 必要な作業は、VS Codeの導入、Claude Codeの導入、Claudeアカウントの準備 02. VS Codeで練習用フォルダーを開き、ファイルの一覧と変更を確認する 03. Claude Codeをパソコンに導入し、バージョン番号が表示されることを確認する 04. ブラウザでClaudeアカウントを認証し、Claude Codeの入力画面を表示する 05. Claude Codeに学習メモの作成を依頼し、確認・許可・結果の検証までを体験する 06. Claude Codeが動かない原因を、起動・認証・応答の順に確認して対処方法を学ぶ 07. Lesson 4のブラウザ自動操作に備えて、Node.jsを導入しバージョン番号を確認する	
Lesson 2 GASで簡易自動化とCoWorkの概要 内容：GASで2つの自動化演習（整理・通知/PDF転記）をい、CoWorkの概要を理解する ・GAS（Google Apps Script）とは ・ハンズオン①スプレッドシート整理・通知の自動化 ・ハンズオン②請求書PDFの自動読み込み→転記 ・CoWorkの概要（各ツールの違い・料金）・今回のまとめ		Lesson 2 ローカルファイル操作エージェント ・ローカルファイル操作エージェント ・テンプレートから新規資料を生成しよう ・Officeファイル进行操作しよう		【Lesson 2 ローカルファイル操作エージェント】 01. 作業フォルダを指定して、Claude Codeが扱うファイルの範囲を決める 02. Globでファイル名、Grepで内容を探し、Readで見つけたファイルを読み取る 03. Writeで新しいファイルを作り、Editで必要な部分だけを修正する 04. 整理計画を確認してから実行を許可し、整理後にファイル数と移動先を検証する 05. テンプレートとデータを読み取り、目印を置換して新しい資料として保存する 06. 複数ファイルから必要な情報を集め、一つのレポートにまとめる 07. python-docxを使って、Word文書の見出し・段落・表を読み書きする 08. Excelの表を読み取り、複数のデータの一つにまとめる 09. 成果物の件数と内容を元ファイルと照合し、依頼文と確認手順を残して再実行する	
Lesson 3 CoWorkハンズオン①（事例編） 内容：判断分岐を含む3つのハンズオン事例（領収書チェック／応募書類の仕分け／アンケート一次対応）をもとに構築する ・3つの事例紹介（領収書チェック／応募書類仕分け／アンケート一次対応） ・事例の読み解き：判断分岐を見つける ・ハンズオン：3事例から1つ選んで構築① ・構築②・動作確認・今回のまとめ		Lesson 3 Skillsを活用したエージェント ・初めてのSkillを作成しよう ・1on1記録整理Skillを作成しよう ・経費精算レポートSkillを作成しよう ・顧客フォローアップSkillを作成しよう ・1on1記録整理Skillを作成しよう		【Lesson 3 Skillsを活用したエージェント（繰り返し使えるコマンド）】 01. Skillは、繰り返す指示をまとめた手順で、同じ作業を何度でも呼び出せる 02. SKILL.mdの説明欄に使用場面を書き、本文に実行手順とルールを書く 03. 直接呼び出しと自動選択を使い分けて、意図したSkillを動かす 04. 相手先や案件名を引数としてSkillに渡し、一つの手順を案件ごとに使い分ける 05. Lesson 2のファイル操作をSkillにまとめ、経費レポートを自動生成する 06. 商談記録を一度読み取り、お礼メール・次の対応・次回議題をまとめて作る 07. テンプレートで構成、見本で文体を示し、Skillの出力をそろえやすくする 08. 期待した結果と実際の出力を比べ、SKILL.mdを修正して再実行する 09. プロジェクト内にSkillを置き、チームで同じ手順と確認方法を使う	
Lesson 4 CoWorkハンズオン②（応用編） 内容：自分の業務に合わせたエージェントづくりに取り組み、研修を総括する ・エージェント設計ワーク（業務分解・設計書化・4案から選ぶ） ・実演①②（問い合わせ振り分け／レシート・請求書チェック） ・実演③④（会議メモ・議事録・ToDo／提出書類の受付チェック） ・まとめ（4回の総括・Claude Codeへの案内・AI活用の注意点）		Lesson 4 ブラウザ自動操作エージェント ・ブラウザを自動で操作してみよう ・複数サイトを巡回しよう ・フォームに入力してボタンをクリックしよう ・データを抽出してファイルに保存しよう ・全技術を統合したエージェントを作成しよう		【Lesson 4 ブラウザを自動操作するエージェント】 概要：Lesson 3まではローカルファイルの操作中心の内容。Lesson4ではWebサイトの操作をさせます。 01. AIエージェントによるWeb情報の活用／ブラウザ操作・情報取得・外部サービス連携 02. Playwright MCPを接続すると、ブラウザ操作をツールとして使える 03. 画面構造で操作対象を特定し、スクリーンショットで表示結果を確認する 04. 取得する項目・URL・確認日時を指定し、Web情報を出力付きの表に整理する 05. 複数のサイトやページを順番に巡回し、成功と失敗を分けて記録する 06. フォームへの入力までは自動化し、内容を人が確認してから自分で送信する 07. 調査結果をCSVとレポートに保存し、URL・確認日時・画像を根拠として残す 08. ブラウザ操作とファイル保存をSkillにまとめ、対象や取得項目を変えて何度でも実行する 09. 規約を確認し、認証情報や機密情報を渡さず、送信・購入・投稿は人が最終判断する	
「経営革新AIコース」の必修講座（20名）。必修受講者はチャットサポート対象（受講中・受講後の質疑応答に1〜2営業日以内で返信）。他コースの受講者も選択講座としてe-learning受講可（チャットサポートは対象外）。受講後は、質問内容を全体共有する『リアルタイムでオンライン対話』が可能な追加セミナー』を別途開催予定（開催日時はプラットフォームのHP『リスキリング2026～おいた地域連携プラットフォーム』でも告知）。		Lesson 5 AIエージェントエンジニアリング ・「仕事のシステム化」という考え方を知らう ・外部APIの準備とプロジェクトの基盤を作ろう ・競合サイトからデータを収集して構造化しよう ・データを比較してインフォグラフィックを生成しよう ・レビュー用のViewerアプリを構築しよう ・ワークフローを整理してSkill化しよう ・別のAIエージェント駆動ワークシステムも作ってみよう		【Lesson 5 AIエージェントエンジニアリング】 概要：Lesson 4まででテキストの処理、ファイルの操作、Webからの情報収集の作業を効率化を学びました。本稿では、取得し並べたデータを分析し、グラフなどに見える化し、意思決定に使える報告にまとめる部分を解説します。言い換えると、Claude CodeにPython, API, 人間のレビューを組込んだ運用可能な仕事システム化です。 01. AIに個別の作業を任せる段階から、AIを組み込んだ業務全体を設計する段階へ 02. 業務の目的・対象・制約・完了条件を決め、AIエージェントに任せる範囲を明確にする 03. 意味の理解はClaude Code、計算はスクリプト、専門処理はAPI、最終判断は人が担当する 04. ファイルを入力・処理中・出力・承認済みのフォルダに分け、進行状況と再開地点を確認する 05. Web情報を同じ項目の表にまとめ、出典を確認できる比較資料として意思決定に使う 06. Webから収集したデータの点検と差分計算を自動化し、計算ミスを防いで結果を検証しやすくする 07. Claude Codeが分析レポートの初稿を作り、外部APIが表紙画像や概念図を生成する 08. 生成した成果物の形式や計算結果は自動でチェックし、分析内容の妥当性は人が確認して承認する 09. 業務の一連の工程と再開条件をSkillにまとめ、実行記録を確認して失敗した工程から再開する 10. Web調査業務で使った収集・検査・分析・承認の流れを、音声制作など別の業務にも応用する	
受講にあたり、Claude Proアカウント（年額契約）のご契約が必要です。Proアカウントであれば、Claudeチャット・CoWork・Claude Codeのすべてを利用できます。年額契約（年間 約3万〜3.6万円）を推奨します。		Lesson 6 大学事務 基礎編 ※ Lesson 6, 7 は、Claude に特化した使い方ではなく、多様なAI利用を想定しています。ワークフローの自動化の例として「Microsoft Powerautomate」をとりあげています。 ・ 課題1 大学事務を「少し楽にする」から始める ・ 課題2 原本を守りつつでも戻せる作業環境を作る ・ 課題3 学生・教員からの問い合わせを整理する ・ 課題4 会議資料・議事録・対応事項を整理する ・ 課題5 定型的な通知文やメールの下書きを作る ・ 課題6 成績・入試・学籍データの不整合を確認する ・ 課題7 研究費の申請・報告業務を支援する ・ 課題8 学内規程と文書案を照合する ・ 課題9 AIへの指示をテンプレート化して共有する ・ 課題10 小さな改善を安全に職場へ広げる		Lesson7 学校教員 基礎編 ・ 課題1 先生の仕事を「少し楽にする」から始める ・ 課題2 安全に試して、元に戻せる準備をする ・ 課題3 伝わる読み方と、確かめ方を身につける ・ 課題4 保護者向けのお知らせを下書きする ・ 課題5 会議メモから、決定事項と宿題を整理する ・ 課題6 授業の導入と発問のたたき台を作る ・ 課題7 教材の説明と練習問題を整える ・ 課題8 行事・校務の段取りを整理する ・ 課題9 報告書・調査回答の下書きを整える ・ 課題10 一つ試して、続けるかを決める	

AIPA 制作の e-learning （Moodle 上で受講）

No タイトル		時間分	概要	第1～第4の分類案
S2	アドバンスド・エッセンシャルワーカーとは	3	医療・介護・福祉の現場で、専門職としての経験に加え、データやデジタル技術を活用して業務改善を進める人材像を解説します。アドバンスド・エッセンシャルワーカーに求められる視点、役割、学び直しの意義をわかりやすく整理します。	第1段階： 医療Dx・AIは、誰も置いていかない 目的： まずは幅広い受講者全員の心理的ハードルを下げ、同じスタートラインに立ってもらうこと。 理事長へ伝わって欲しいこと： AI・DXは「高額な投資」ではなく、現場の負担を減らし経営を安定させるための、厚労省も推奨する「身近な業務改善」です。 ベテランへ伝わって欲しいこと： 「デジタルは苦手」と身構えるベテランの皆様。組織でのAI・DXの活用は、あなたを排除するものではなく、むしろ患者の安心・安全（メリット）を最大化するための道具です。
S0	厚労省が推奨する「医療DX」は難しい	3	厚生労働省が進める医療DXの考え方を、医療・介護現場の身近な業務に置き換えて解説します。電子カルテ、オンライン資格確認、情報連携などを例に、DXは特別なIT部門だけのものではなく、利用者・患者の安心と現場の負担軽減につながる取り組みであることを紹介します。	
S3	病院・介護施設でよくあるDXの“誤解”3つ	5	「DX＝高額なシステム導入」「ITが苦手な人には関係ない」「現場の仕事が増えるだけ」といった誤解を取り上げ、実際のDXの目的を解説します。小さな改善から始める考え方を通じて、現場が主体となって進めるDXの第一歩を学びます。	
S5	利用者さんにとってのDXのメリット	4	デジタル・トランスフォーメーションが経営の効率化にとどまらず、サービス利用者（患者様、施設利用者様など）の安心、安全、満足にどう繋がるかを紹介。サービス利用者が実感するデジタル化のメリットと恩恵を学びます。	
B3	システムの“つながり”を知る	25	医療・介護の現場では、電子カルテ、介護記録システム、ナースコール、見守り機器、予約管理、請求システムなど、さまざまなシステムが使われています。これら「単独の道具」として見るだけでは、現場全体の流れを正しく理解することはできません。「自分が入力している情報が、どこで、誰に、どのように使われているのか」を理解し、チーム全体を支える情報の流れとして捉えられるようになることを目指します。	
B4	データが教えてくれる“現場のムダ”	30	記録や業務データから、待ち時間、重複入力、申し送りの抜け漏れ、移動や確認作業のムダを見つける方法を紹介します。現場感覚とデータを組み合わせ、改善テーマを発見するための基本的な見方を学びます。	第2段階： 現状の可視化：どこで消耗し、耐え忍んでいるのか？ 目的： 現場と多様な現場間の「見えない摩擦、合理的でない作業」についてデータを基に論理的に見える化すること。 現場の従業員へ（ベテランと若手中堅）： 自分が考えて言語化し、入力した情報が「どこで、誰に共有（つながっている）のか、共有（つながっていないのか）に気づいて欲しい。係ごとにバラバラだった枝葉としての業務が、一本の幹に合流させた時に、業務現場における「待ち時間」や「重複入力」のムダを浮き彫りにして欲しい。 ベテランと新人の共通了解： 「個人の能力や性格」ミスマッチによる軋轢と断定する前に、不完全なシステムのために生じる「確認作業のムダ」や「申し送りの抜け漏れ」を確認することに気づきます。お互いを責める不毛な関係を避けま す。
B2	現場で使えるAIの基礎知識	30	AIの基本的な仕組みと、医療・介護・福祉現場での活用可能性を解説します。音声入力による記録作成、要約、問い合わせ対応など、すでに実用化が進む事例も交えながら、AIを安全かつ効果的に使うための考え方と注意点（誤情報＝ハルシネーション、個人情報の取り扱い、院内ルールの整備）を学びます。	
B6	生成AIを使った文書作成・説明資料づくり超入門	25	医療・介護現場では、日々の記録、申し送り、研修資料、家族向けの説明文、業務マニュアル、報告書など、多くの文書作成業務が発生します。医療・介護現場における文書作成や説明資料づくりを生成AIで効率化するために、プロンプトの基本、出力結果の確認方法、個人情報を入力しないための注意点を踏まえ、安全に活用するための基本を学びます。	
C1	看護スタッフのためのDX活用ケース	25	看護業務における記録、申し送り、患者説明、教育、業務調整などを題材に、DX活用ケースを紹介します。看護の専門性を支えるために、デジタルツールやデータをどのように活用できるかを具体的に考えます。	
	AIエージェント活用による医療業務改善講座	5	AIエージェントの基本概念と、医療現場における業務改善への活用可能性を解説します。予約調整、情報整理、問い合わせ対応、文書作成支援などを例に、職員が判断すべき領域とAIに任せられる領域を切り分ける考え方を事例とともに学びます。	第3段階： 生成AI・AIエージェントによる救済：作文から解放され、患者の心へ 目的： 申し送り書作成などで最も時間をとられ、苦しんでいる「言語化の負担」と「現場での作業ミスへのストレス」をAIがどう解決できるのか具体的にイメージできること。 現場の中堅・若手へ： 作文とミスに対する恐怖への新対処の候補を知ります。音声入力、AIエージェントを活用することで、毎日の申し送り、日誌、家族向け説明文案などの資料のたたき台が「一瞬で作成」され、当事者は、その案を加除修正する説明を受けま す。AIに任せる領域と人が判断する領域を切り分けることで、現場ワーカー、特に新人はミスに怯えることを減らし、理想とした「命・患者のケア」に集中できることを知ります。 病院全体の最適化： 看護現場だけでなく、リハビリ職、福祉施設の見守り職、そして外国人への多言語対応なども可能なことを知ります。看護部だけでなく、病院丸ごとが変わるチャンスになることを知ります。
P1	生成AIを使った「業務マニュアル」作成ワーク	45	生成AIを活用して、業務マニュアルの構成案、手順書、チェックリスト、FAQを作成する実践型講座です。現場の暗黙知を整理し、新人教育や多職種連携に使いやすいマニュアルへ落とし込む手順を知り、マニュアルや個々の経験データから、各業務の注意点を提示したり、質問に回答できるAIの活用事例を学びます。	
P3	チャットAI+翻訳で多言語対応を強化する	30	チャットAIと翻訳ツールを組み合わせ、外国人利用者・職員とのコミュニケーションを支援する方法を紹介します。案内文、説明資料、やさしい日本語、多言語FAQの作成を通じて、現場で使える多言語対応の基本を学びます。さらに、外国人介護者による介護システムへの登録支援の可能性を学びま す。	
C2	リハビリ職のためのデータ活用入門	25	リハビリ職が扱う評価結果、訓練記録、ADL、目標達成状況などのデータを活用する基本を解説します。利用者の変化を見える化し、多職種連携や説明の質を高めるためのデータ活用の入口を学びま す。	
C5	福祉施設での見守り・記録DXの実際	25	福祉施設における見守り機器、記録システム、申し送り、事故・ヒヤリハット情報の活用事例を紹介します。利用者の安全と尊厳を守りながら、職員の負担軽減とサービス品質向上を両立するDXの進め方を学びます。	
C6	介護施設における外国人材活用のためのDX活用	25	外国人材が安心して働ける環境づくりに向けて、翻訳ツール、動画マニュアル、チャットAI、業務手順の見える化などの活用方法を紹介します。言語の壁を下げ、教育・連携・定着を支えるDXの考え方を学びま す。	
Sx	経営者・従事者にとってのアドバンスド・エッセンシャルワーカー実現の"価値"と"心得"	4	アドバンスド・エッセンシャルワーカー実現の促進は、経営には「成長とイノベーション」、従事者には「キャリアアップとウェルビーイング」と、双方に大きな利益をもたらし、地域社会の持続可能性を高めていきます。価値を享受できる「準備」と「思考」を学びま す。	第4段階： 安全と誇り："アドバンスド・エッセンシャルワーカー AEW"への成長 目的： 経営者と従業員の双方にとっての「利点」を理解し、変容への行動につなげる。 理事長などの経営層へ： リスク管理と投資効果から、AI活用で懸念される「個人情報」と「ハルシネーション（誤情報）」への具体的な対策と、セキュリティの3ポイントを理解してもらい、経営者としての根底にある不安に対処できるようにします。 全員（経営層と現場ワーカー）へ： 時代トレンドのテクノロジーを味方につけた看護師、介護士、社会福祉士は、単なる労働者ではなく、多くのデジタル化された経験値を、実体験で得た暗黙知（言葉になっていない知識）と相乗させることができる"アドバンスド・エッセンシャルワーカーAEW"に成長します。 目的： 命に向き合う仕事の本質は、パソコンに向かって作文することではないこと。そして、患者の手を握り、心に触れ合うことが大切なことを再確認します。AIなどのテクノロジーの駆使は、私たちから温もりを奪うものでなく、それを届ける時間と心のゆとりを創るものであることを本オンデマンド動画から理解してもらいたいと願っています。
B5	個人情報保護と医療・介護情報の取り扱い入門	30	医療・介護・福祉分野で扱う個人情報・要配慮個人情報の基本を解説します。記録、共有、外部委託、クラウド利用、AI活用の場面で注意すべきポイントを整理し、安心してデータを扱うための基礎知識を学びま す。あわせて、医療情報を研究開発に二次利用するための「次世代医療基盤法」についても、制度の概要と現場が押さえるべき留意点を紹介します。	
S6	DX時代の情報セキュリティ"これだけは"3ポイント	5	医療・介護・福祉現場で最低限押さえておきたい情報セキュリティの基本を、3つのポイントに絞って解説します。①パスワード管理、②誤送信・紛失の防止、③不審なメールを開かない（ランサムウェア対策）と生成AI・クラウド利用時の注意点。診療停止などの重大被害を防ぐため、今日から実践できる対策を学びま す。	
	大分大学からの応援メッセージ	3	私は、救急担当の看護師でした。今、本事業のコーディネーターとして、看護の後輩のために、このカリキュラムを病院組織向けに編成しました。動画内容とその作成は、一般社団法人AIPAによるものです。私は、看護師業務が多忙過ぎて命を預かる責任との乖離に苦しんでいました。命に対する責任、負荷量、人間関係の淀みから常に離職したい気持ちを押さえて仕事していました。命に直面している義務感だけで仕事を継続するには無理があることを身を持って経験しています。今は、テクノロジーを上手く使い、皆様方には是非ともお仕事をガンバって頂きたいと考えています。	
	（ナレーション役：新規採用の元看護師のコーディネーター 自主作成）			

専門導入科目(大学教員作成 AI関連科目) Moodle 上で受講

		健康科学概論			専門/おおいた
授業形式		大学名	学部	担当教員	日時(対面の場合)
対面/ オンデマンド		大分大学	医学部	山本 恭子 二宮 繁生	
授業の概要		健康情報、AI、チーム医療、社会の壁健康情報の見極め方、AIで変わる医療、チーム医療、支援に届くまでの壁を通して、健康と医療を自分ごととして考えることを目指す。			
具体的な到達目標					
目標1		信頼できる情報とは何かを説明できる			
目標2		AIが医療に与える影響を説明できる			
目標3		チーム医療の意義を説明できる			
目標4		健康を妨げる身近な壁に気づくことができる			
目標5		健康と医療を自分ごととして考えることができる			
授業の内容					
1コマを通しての内容		それぞれのセクションの内容			
		セクション1	セクション2	セクション3	セクション4
1	健康情報のウソ・ホント (山本)	信頼できる情報とは	正しくない情報の影響	医学部学生のグループワーク	信頼できる情報を見抜くために
2	AI時代の医療 (二宮)	AIとは	ITリテラシー	医療におけるAIの利用	2040年の医療予想
3	多職種連携とチーム医療 (二宮)	多職種連携とは	様々な現場における多職種連携	大学における多職種連携教育	医学部生が考える多職種連携
4	身近な壁と支援 (山本)	医療は平等か公平か	不公平が格差になる仕組み	医学生が考える壁と支援	アドボカシーと行動変容
備考					